

内裏西官衙地区の調査

—第152-6次

調査の経緯 本調査は、近畿農政局による農業水路の改修にともなう事前の発掘調査である。調査地は奈良県橿原市縄手町のJ A橿原市鴨公支店駐車場に位置し、藤原宮の内裏西官衙地区に相当する。調査区は水路の新設区間の形状に合わせ、東西の最大幅8m、南北20m、総面積は62.5㎡。調査期間は2008年12月1日～12月15日である。なお、周辺では本調査区以外にも配水管埋設にともなう掘削が複数箇所あった。立会調査によって個別に対応し、工事深度が遺構面に達しないことを確認した。

基本層序 層序は上から順に造成土の黄褐色砂質土、耕作土の茶褐色砂質土、古墳時代の土師器片を含む暗褐色粗砂、弥生土器を含む青灰色粘質土、自然流路の堆積土と考えられる黒灰色砂質土、青灰色粗砂である。茶褐色砂質土と暗褐色粗砂は調査区の南半部分のみで確認できた。藤原宮期の遺構は暗褐色粗砂の上面で検出し、検出面の標高は約69.1mである。

おもな遺構 暗褐色粗砂および青灰色粘質土の上面で東西溝2条、楕円形の土坑1基を確認した。調査区北側に位置する東西溝SD10840は幅約1.2m、深さ約50cmである。また、それよりも南側で確認した東西溝SD10841は幅約1.2m、深さ約30cmである。中世の土坑SK10842によって北側の溝の中心を確定できなかったが、2本の溝はほぼ平行し、心心間距離は7m前後であろう。藤原宮第11・16次調査で確認している藤原宮の先行条坊、四条条間路SF1731とは位置がずれるものの（『藤原概報5』）、宮内道路の両側溝である可能性がある。

土坑SK10840は東西約3m、南北約2.4mの楕円形を呈し、深さは約50cmである。埋土からは中世の羽釜が出土した。

出土遺物 出土遺物はコンテナ1箱程度で、土師器、須恵器、弥生土器などがある。瓦、木製品、金属製品は出土しなかった。

まとめ 本調査区では、西方官衙に関わる建物などは検出できなかったものの、東西溝2条と土坑を確認した。今後の調査によって西方官衙地区の様相が判明することに期待したい。

（豊島直博）

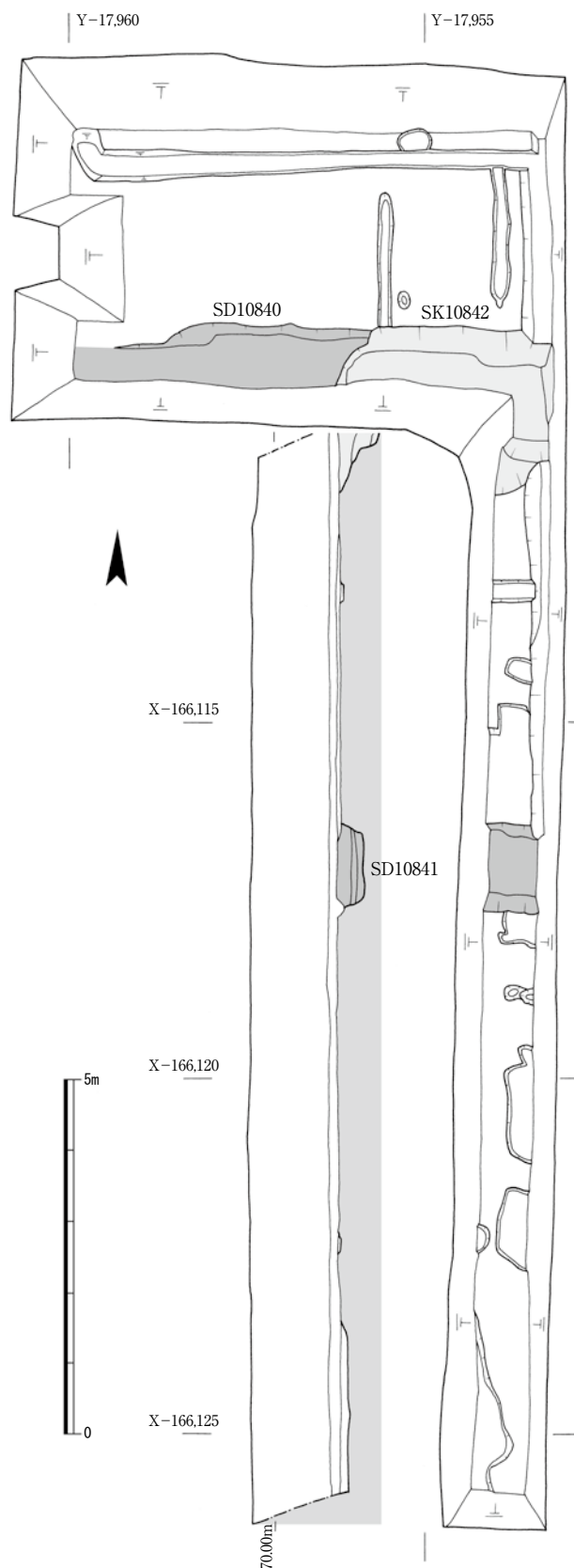


図73 第152-6次調査遺構図・西壁断面図 1:100